

原稿④「ことばで伝える」(日野町立図書館 上林貞志)

対象：中学校2年生 所要時間：約45分

みなさんこんにちは。学校図書館司書の上林です。いつも図書館をたくさんつかって来て、ありがとうございます。

今日はブックトークをしにきました。みなさんはブックトークって聞いたことあるでしょうか？ブックトークとは、一つのテーマに沿っていろいろな本を紹介することです。話を聞いてみて、あの本おもしろそうやな～、と思ったら、ぜひ後でよんでみてください。

今日は「ことばで伝える」というテーマでブックトークをしたいと思います。(黒板に書く)
言葉はコミュニケーションにとって、なくてはならないものです。言葉がなければ気持ちを伝えられないし、相手の気持ちもわかりません。でも、ただ使えばいいっていうものでもなくて、使い方によっては人を救うこともあるし、凶器にもなるのが言葉です。これから言葉についての本をいろいろ紹介するので、自分たちが使っている言葉について、少し考えてみてもらえればと思います。

さて、今こうしてみなさんと話をして通じるのは、ここにいるみんなが言葉がわかるからですね。ふだん何気なく使っている言葉ですが、では、どうして人間だけが言葉を使えるのか考えてみたことはないですか？犬とか猫ともしゃべれたら楽しいと思いませんか？でも犬も猫もワンとかニャーとしか言ってくれません。

『言葉はなぜ生まれたのか』(表紙見せる)という本があります。

この本によると人間のように言葉を使うには4つの条件が必要だそうです。(p15 見せながら)一つめの条件は発声学習ができること。発声学習とは初めて聞いた言葉をマネすることができるということです。二つめは音と意味が対応していること。たとえば、「ぼうし」という単語は「頭にかぶるもの」という意味とつながっています。三つめは文法があること。文法とは文章をつくる時のルールのことです。四つめは社会関係のなかで使い分けられること。人間は立場によって敬語を使ったりして言葉を使い分けています。この4つの条件をすべて満たせるのは人間だけですが、条件のうち一部だけを持っている動物はいるんです。一つめの条件の発声学習ができること、つまり人間の言葉をマネできる動物がいるんですが、何だかわかりますか？(問いかけ)

鳥の仲間、特にオウムや九官鳥は人間の言葉をマネする能力があります。それとイルカなどのクジラの仲間もマネすることができるそうです。マネができるのは、鳥とクジラの仲間、それと人間だけです。(p24 見せながら)

では、マネができる動物とマネができない動物は何が違うと思いますか？(間)実はマネができる動物は息を止めることができるんです。鳥は高い空を飛ぶとき、クジラは水の中に潜るときに息をとめないといけないので、呼吸をコントロールする機能が発達したのだと考えられます。ちなみに犬とか猫は自分の意思で息を止めることができません。じゃあ逆に考えてみると、どうして人間は空を飛んだり、水の中に潜ったりしないのに、息を止められるようになったのでしょうか？その秘密はこの本の最後のほうで明らかになります。気になる人は読んでみてください。

『言葉はなぜ生まれたのか』でした。(本を置く)

言葉を使える私たち人間ですが、それでも他の人に自分の気持ちを伝えるのはなかなか難しいですよ？それはたぶん大人でも同じです。どうすれば気持ちはうまく伝わるのでしょうか。コミュニ

ケーションで大切なことを教えてくれる絵本があります。

『この気もち伝えたい』です。(表紙見せる)

少し読んでみます。(最初からp23まで読む)

コミュニケーションってキャッチボールと全く同じなんです。大切なのは気持ちを伝えるために相手の受けとりやすいボールを投げることに、ボールをうまくキャッチできるようになることです。キャッチボールそのものを楽しめるようになれば、素晴らしいなと思います。人間関係に悩んでいる人はぜひ続きを読んでみてください。きっと心が楽になると思います。

『この気もち伝えたい』でした。(本を置く)

言葉を直接伝えるのが難しい時は気持ちを短歌にするという方法もありかもしれません。みなさん短歌って知っていますか？(黒板に書く)短歌というのは言葉の音数がぴったり五／七／五／七／七になっている文章です。それ以外の決まりごとはありません。俳句と違って短歌には季語もありません。その短歌をテーマにした物語があります。

『うたうとは小さいのちひろいあげ』(表紙見せる)

どんな物語かというと、主人公は高校1年生の桃子です。桃子はひよんなことからうた部に入部しました。うた部は短歌を詠む部活です。部員は桃子も入れてたった4人でした。桃子は高校の3年間、友達を作らないと決めていましたが、うた部の先輩は楽しい人ばかりでだんだんと打ち解けていきます。それと、もう一人重要な登場人物がいます。桃子の親友の綾美です。綾美は桃子と同じ高校に入学しましたが、すぐに不登校になってしまいました。中学のときのある事件が原因なのですが、綾美は引きこもってしまって、やりきれない気持ちをネットのブログにぶつけていました。桃子は綾美が不登校になった責任が自分にもあると思って、毎日学校帰りに綾美の家に寄っていましたが、このままでいいのか悩んでいました。綾美にも桃子を憎む気持ちがあって、ふたりの関係はぎくしゃくしていましたが、うた部の先輩たちと短歌を詠む中でしだいに気持ちの整理をつけていきます。

で、この先輩たちがほんとに個性的でキャラが濃いんですが、すごくいい短歌を詠むんです。たとえばこんな短歌が出てきます。(附箋部分詠む)タイトルの「うたうとは小さいのちひろいあげ」はラストシーンで桃子が詠んだ上の句です。これに対して綾子が下の句を詠むんですが、そこが最高にかっこいいんです。言葉の力を感じられます。さあ、どんな短歌になったのでしょうか。読んでみてください。(本を置く)

ちなみに三部作となっていて、続編は『空はいまぼくらふたりを中心に』と『青春は燃えるゴミではありません』となっています。ぜひ合わせてどうぞ。(表紙を見せて置く)

日本には昔から短歌や俳句のように短い文章で気持ちを伝える文化があります。ツイッターとかインスタグラムといったSNSをしている人もなかにはいるかもしれませんが、今の時代でもいかに短い文章で自分を表現するかが大事になってきていると思います。そんなSNSから生まれたのが、

『54字の物語』です。(表紙見せる)

ひとつのお話が54文字ピタリで終わります。いくつか読んでみるので、どんなお話しなのか想像してみてください。(表紙と付箋部分を読む)

本の最後には54文字の原稿用紙がついています。みなさんも物語を作ってみてはいかがでしょうか？

『54字の物語』でした。(本を置く)

物語を作ったことある人は、あんまりいないかもしれませんが、文章を考える機会はよくあると思います。みなさんは文章を考えると、使う言葉に迷ったことはないですか？日本語には同じ読みでも違う意味の言葉があります。たとえば「足」と「脚」。(黒板に書く) この違いが分かる人はいますか？(問いかけ)

似ている言葉や物を分かりやすく説明してくれる本があります。

『似ていることば』です。(表紙見せる)

この本を見てみると、(p20・21) 写真が載っていますが、なんとなくわかったでしょうか？次のページに解説が載っています。足首から下が「足」で、太ももから下が「脚」だそうです。

ではもう一問。「羽」と「羽根」の違いはなんでしょう？(黒板に書いて問いかけ)

(p136・137) 鳥の体についているのが「羽」、鳥の体から離れているのが「羽根」です。違いが分かりましたか？

ちなみにみなさんこれは何と呼びますか？(シャベルを出す) この本によると、関東では大きいのがスコップでこの小さいのがシャベル。関西では大きいのがシャベルでこの小さいのをスコップと呼ぶ人が多いみたいです。ややこしいですね。

『似ていることば』でした。(本を置く)

さて、関東と関西の話がでてきましたが、みなさんは自分がどんな言葉、何弁をつかっていると思いますか？(問いかけ) 滋賀県の方言は基本的には関西弁に近いと思いますが、滋賀弁というか近江弁ともいえる立派な方言があります。そんな滋賀県の方言を紹介している本がこちらです。

『ええほん 滋賀の方言手控え帖』です。(表紙見せる)

たとえば、こんな方言が載っています。(付箋部分を紹介)

みなさんが普段使ってる言葉で、方言ちゃうかな〜って思う言葉はありますか？(あれば調べる)

ところでみなさんは、「平家物語」は習いましたか？(p129「平家物語」を読む) これを滋賀県の方言で言ってみるとこうなります。(方言 Ver.を読む) わかりやすかったですか？

『ええほん 滋賀の方言手控え帖』でした。(本を置く)

方言には、ひと言では説明できない、微妙なニュアンスをもった言葉があります。たとえば関西弁でよく使う「ぼちぼち」って、正直どれくらいかよく分からないですよ？実はそういう説明しにくい言葉は世界にもたくさんあります。それを集めたのがこの本です。

『翻訳できない世界のことば』(表紙見せる)

少し中身を紹介します。(p22、p68、p74、p90を紹介)

『翻訳できない世界のことば』でした。(本を置く)

翻訳できない言葉を紹介しましたが、逆にいろんな訳し方がある言葉もあります。

みなさん、アイラブユーってどういう意味か分かりますか？(問いかけ)

夏目漱石の有名なエピソードがあるんですが、夏目漱石はアイラブユーを「月がきれいですね」と訳したそうです。漱石曰く、日本人は「愛している」なんて言わない「月がきれいですね」と訳しておけば、それで気持ちは伝わるとのことです。だから、これからみなさんも誰かを好きになったり、好きになられたりすることもあると思いますが、もしも「月がきれいですね」と言われたらボーっとしてたらだめですよ。もしかしたら告白されているかもしれません。それはさておき、

『I Love Youの訳し方』という本があります。(表紙を見せる)

この本には100人の作家さんによる100通りのアイラブユーの伝え方がのっています。印象に残ったのがいくつかあるんですが、例えばあの有名なシェイクスピアはこんな風に表現していま

す。(p194 読む) 夏の日にたとえるかと思いきや、やっぱりやめる。でもなんだかロマンチックですよね。みなさんはあまりご存じないかもしれませんが、歌人で劇作家でもあった寺山修二はこう表現しています。(p70 読む) 思い出すっていうことは忘れられてるっていうことなんですよ。忘れてほしくないっていう気持ちが伝わってきます。みなさんだったらアイラブユーをどんな言葉で伝えるでしょうか？

『I Love Youの訳し方』でした(本を置く)

とはいえ、思春期真っ只中のみなさんは、愛のこととか恋のこととか、うまく言葉にできなくて悩んだり、モヤモヤすることもあると思います。

そんな人にオススメなのがこちらの『恋する熱気球』です。(表紙を見せる)

短編集になっていて、ちょっと不思議なお話が5つ載っています。どのお話も主人公は中学生です。表紙がかわいいのでキラキラした恋のお話かと思いきや、全然そんなことないです。どの主人公も悩んだり、妬んだり、モヤモヤしている人ばかりです。男子はちょっと手に取りにくいかもしれませんが、悩んでる男の子の目線で描かれた話もあるので、ぜひ読んでみてほしいと思います。僕のお気に入りには表題作の「恋する熱気球」というお話です。燃えるような恋とか恋の炎という表現を聞いたことがあると思いますが、主人公の女の子は恋の炎によって体が熱くなると、気球のように浮かんでいってしまうという変わったお話です。一体どうなってしまうのでしょうか？他にも惚れっぽい男の子の話とか魔法少女になってしまった女の子の話も楽しかったです。

『恋する熱気球』読んでみてください。(本を置く)

では、最後にみなさんに、なぞなぞを出そうと思います。

『世界のなぞかけ昔話 やっとわかったぞ!』という本から「線」という問題です。よく聞いてみてくださいね。(p6 出題)

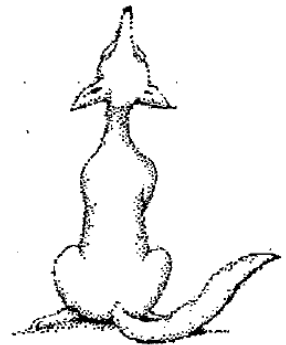
この本の「はじめに」のところにちょっといいことが書いてあったので読んでみます。(「はじめに」を読む)

みなさんにはこれからも人の言葉をよく聞いて、よく考えて、うまく言葉を使っていてもらえればと思います。今日は「ことばで伝える」というテーマでブックトークをしました。紹介した本は図書室で借りてもらえます。気になった本があったら、ぜひ読んでみてください。ありがとうございました。(リスト配る)

「ことばで伝える」



1. 『言葉はなぜ生まれたのか』 岡ノ谷一夫／著 石森愛彦／絵 (文藝春秋)
2. 『この気もち伝えたい』 伊藤守／著 (ディスカヴァー・トゥエンティワン)
3. 『うたうとは小さいのちひろいあげ』 村上しいこ／著 (講談社)
4. 『54字の物語』 氏田雄介／作 佐藤おどり／絵 (PHP研究所)
5. 『似ていることば』 おかべたかし／文 やまでたかし／写真 (東京書籍)
6. 『ええほん 滋賀の方言手控え帖』 中山敬一／著 (サンライズ出版)
7. 『翻訳できない世界のことば』
エラ・フランシス・サンダース／著・イラスト 前田まゆみ／訳 (創元社)
8. 『I Love Youの訳し方』
望月竜馬／著 ジュリエット・スミス／絵 (雷鳥社)
9. 『恋する熱気球』 梨屋アリエ／著 (講談社)
10. 『やっとわかったぞ！世界のなぞかけ昔話③』
ジョージ・シャノン／文 ピーター・シス／絵 福本友美子／訳 (晶文社)



イラスト『おっぴろげな口』まゆみ